

キャラクター名
白金 診琴(シロカネ ミコト)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	UGN支部長D	カヴァー	喫茶店店長
	パロール					
オプション			年齢	20	性別	女
覚醒	渴望	衝動	恐怖	初期侵食率	45	%
出自	疎まれた子	経験	技術畑	邂逅	秘密	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	2	0	0			2	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	7
精神	3	0	0			3	戦闘移動	12
社会	1	1	0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉	1	
回避			知覚			意志	1	1	調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		6
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クリスタルシールド		-1	12	0		[ウェポンマウントで入手]装備中他の武器は装備できない。
マグネットコーティング		0	2			所持品の奴
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
アーマースキン※	0	4	-	-	HPダメージ適用される直前に使用。HPダメージを1D10点軽減する。1回1回。(「ドグバット」で取得)
					合計装甲: 4 合計回避: 0

所持品	
データブレイン	
マグネットコーティング	
思い出の一品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 研究者	
情報収集チーム	
携帯電話	
カジュアル	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 機械化兵	P 憧憬	N ○嫌悪		
両親	P 懐旧	N ○嫌悪		
研究者	P ○尊敬	N 恐怖		
協力者	P 尊敬	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	8	残り財産P:	2
--------	---	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ウェポンマウント	2		常時	至近	自身	自動		
効果:	常備化ポイント[LV*5+5]の武器一つを入手。インテグレーションで装備することができる。侵食率基本値+2。							
ハードワイヤード	5		常時	至近	自身	自動		
効果:	ブラックドッグ専用アイテムをLV個入手。侵食率基本値+4							
マグネットフォース	★	2	オート	至近	自身	自動	1/1000	
効果:	DR直前に使用。カバーリングを行う							
磁力結界	3	3	オート	至近	自身	自動		
効果:	ガード時宣言。ガード値+(LV)D							
時の棺	★	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果:	相手が判定を行う前に使用。その判定は失敗となる。1シナリオ1回。							
暗黒螺旋	2	3	オート	至近	自身	自動		
効果:	白兵攻撃に対してガードを行ったとき使用。攻撃してきたキャラクターに[Lv*5]点のHPダメージを与える。1ラウンド1回							
ディメンジョンゲート	★	3	メジャー	視界	効果参照	自動		
効果:	どこにでも繋がるゲートを作り出す事が可能。							
タッピング&オンエア	★	1	メジャー	視界	効果参照	自動		
効果:	情報を送受信できる。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「白金 診琴。若輩者だけど、UGNN市支部長なんてものを勤めさせてもらっているわ」「私の前で、誰一人殺させてなるもんですか」

生まれた時から、両親から望まれていなかった。両親からの愛情はなく、それどころか嫌悪ばかり。極めつけは保険金が欲しいから、という理由で私を道路へと見つからないように突き飛ばすほどだ。そのせいで、私の半身。…嘘偽りなく、体半身は道路を走る大型トラックに潰されくしゃくしゃのミンチになった。その際『死にたくない』と強く願ったおかげか、あるいはそのせいでなのかは分からないが、この力…こんな力に目覚めた。そして、UGNへと引き取られたが私の腕や体は元通りにはならなかった。…その代わりに、こんな可愛くもない機械の体が埋め込まれた。あの時の研究者の人の顔はよく覚えている。怖かった。力を抜えるようになってからは、その力を利用してUGNのサポート。裏方として様々なサポートに徹していた。だが、ある日上司に呼ばれ、何を思ってなのか支部長なんてものに任命されてしまった、拒否権なしで。…正直、簡便してほしいものだ。…でも、任命されたからには、私が出来る事をしていかなければ。